

—フリージア—

フリージア

—— 発病・加害時期
 === 発病・加害最盛期

| 作型・病害虫名 | 月 | | | | | | | | | | | |
|--------------|---|---|---|---|---|---|---|---|---|----|----|----|
| | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 |
| 無加温彼岸出し | | | ■ | | | | | | | | | |
| 冷蔵無加温12~2月出し | ■ | ■ | | | | | | | | | | |
| 首腐病 | | | | | | | | | | | | |
| ヨトウムシ類 | | | | | | | | | | | | |
| ネダニ類 | | | | | | | | | | | | |

球根腐敗病

留意事項

- 1 ホーマイ水和剤を使用する場合、薬液の温度はなるべく10℃以下を避ける。
- 2 ホーマイ水和剤の成分チウラムの総使用回数は、1回。

防除方法

- 1 健全な球根を使用する。
- 2 連作はできるだけ避ける。
- 3 発病株はまわりの土とともに、ほ場外へ持ち出し処分する。
- 4 土壌消毒を行う。(XⅢ土壌消毒 参照)

・ [バスアミド微粒剤](#)、[ガスタード微粒剤](#) 劇 ☐

【花き類・観葉植物 20~30kg/10a は種または植付前/1回】

- 5 植付け前または、貯蔵前に下記の薬剤で処理する。

・ [ホーマイ水和剤](#) M3 ①

【200倍 30分間球根浸漬 植付前又は貯蔵前/1回】または

【球根重量の1.0% 球根粉衣 植付前又は貯蔵前/1回】

首腐病

留意事項

- 1 病原菌は土壌害虫や作業等による傷口から侵入することが多い。

防除方法

- 1 健全な球根を使用する。
- 2 土壌の過湿を避ける。
- 3 多発ほ場での栽培を避ける。
- 4 被害株はまわりの土とともに、ほ場外へ持ち出し処分する。

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

5 土壌消毒を行う。(XⅢ土壌消毒 参照)

・ [バスアミド微粒剤](#)、[ガスタード微粒剤](#) 劇 ☐

【花き類・観葉植物 20～30kg/10a は種または植付前/1回】

ヨトウムシ類

留意事項

1 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

防除方法

1 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。

・ [アフーム乳剤](#) ☐6 【花き類・観葉植物 1000倍 発生初期/5回】

・ [コテツフロアブル](#) 劇 ☐13

【花き類・観葉植物(除きく、ストック) 2000倍 発生初期/2回】

・ [プレオフロアブル](#) ☐UN

【花き類・観葉植物 ハスモンヨトウ 1000倍 発生初期/4回】

・ [フェニックス顆粒水和剤](#) ☐28

【花き類・観葉植物(除きく、りんどう) ハスモンヨトウ 2000倍 発生初期/4回】

ネダニ類

留意事項

- 1 ネダニ類の寄生が疑われる球根(萎縮、腐敗等)は、植付けしない。また、植付け後に気づいた場合(不発芽、生育遅延等)は掘り取って処分する。
- 2 前年に多発したほ場、前作がねぎ、たまねぎ、チューリップなどのほ場では植付けを避ける。

防除方法

- 1 連作を避ける。
- 2 pHが5～6の酸性土壌では発生しやすいため、土壌pHを矯正する。
- 3 健全な球根を使用する。
- 4 収穫残渣は、ほ場外へ持ち出し処分する。
- 5 植付前に下記の薬剤を施用する。

・ [ネマキック粒剤](#) ☐1B

【花き類・観葉植物(除きく) 20kg/10a 全面土壌混和 植付前または定植前/1回】

注1: 同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2: 異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。